傷寒論合原氏

十四

特別
へ13
4274
24

91-2355

為奈の源氏

第九四編 下冊

種彦作

國貞画

仙崖堂壽梓

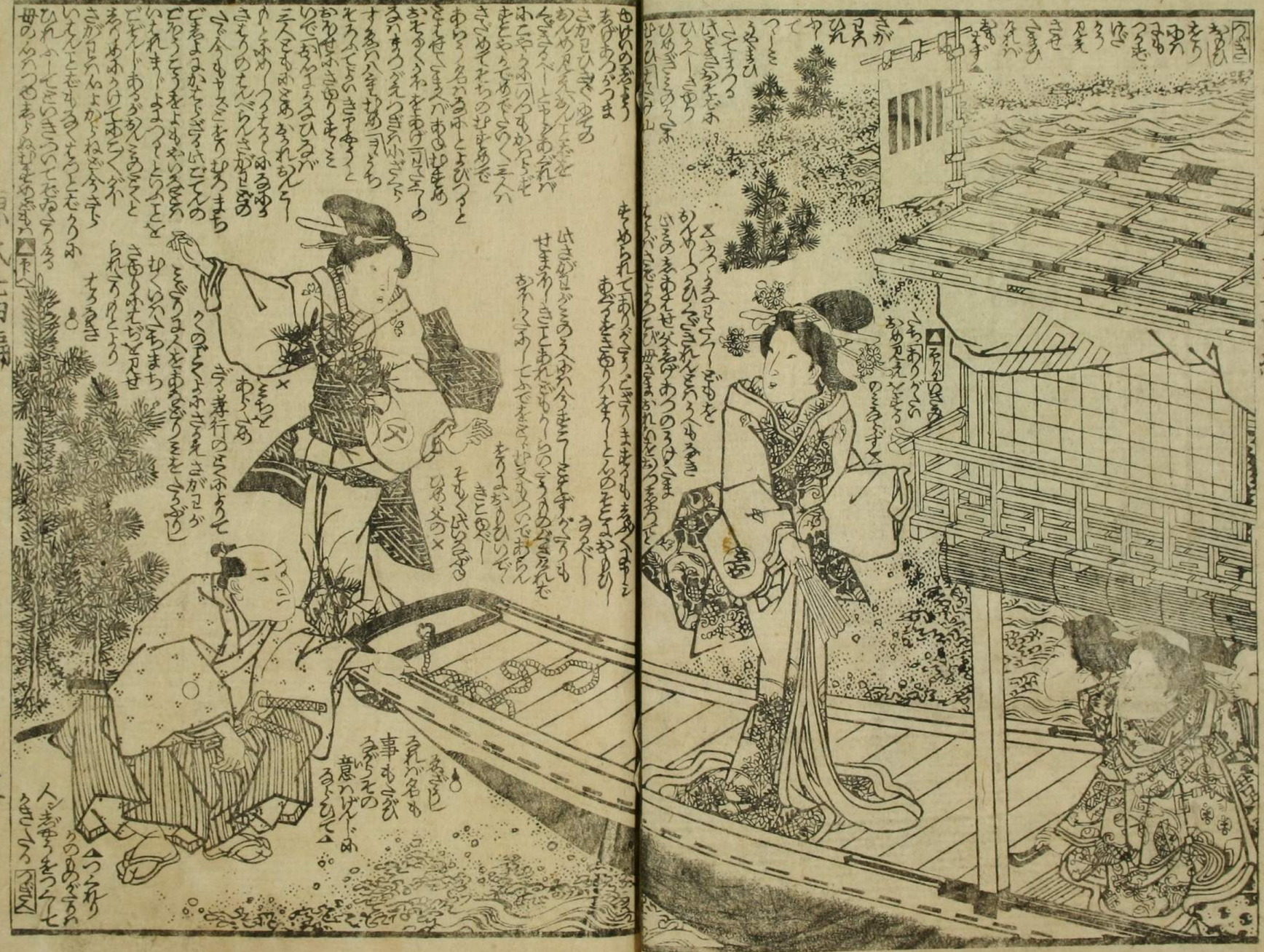
かくれき洞とや絶ぬ
白くとくとせきとめ
清水と人もるらん

是第九四編を歌舞妓の根本ふ譬ちゞロ明へ澪標の續き
ふそ作ゞ物住吉の社の景ゑ掲掛り一面の松並木其緑ゑを
明るくろ連くまるゞ宮参り岸中ゑ浪の音ゑく陸へ初知入
行列と遠見ゑ袖も濡るゝある田蓑の島や雑波江ゑ道具
かゝりて口説の詰ゑ六條田甫乃仮住隣家の琴の調物ふ
幕ひらくゝ六樣の縁語景ゑ紅葉ゑ坂山石山落でゑ
かゝうゑ忠躍路の移ゑ田舎歌関屋をちろと二回目へさゝ
帯の羅所を賀る義ふかゝる世話場ゑ轉ゞく時代時繪の
東山大級素袍の諸士の大詰いづまもゝちの打出ゝを又
ゝ紙つゝゑゝ戻り関屋のすゑ後日ゑ涉しゝ

天保丁酉解凍

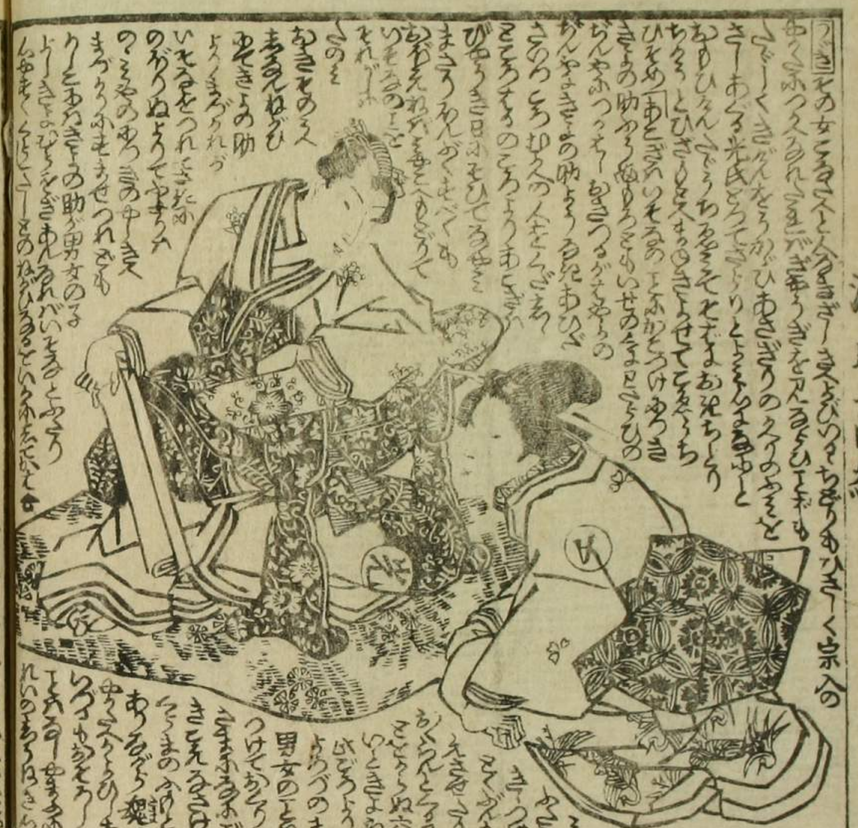
柳亭種彦記

阿古木の女
磯菜
光氏
きよ
喜代之助の
妻
空衣
きよ坂の関や
いろならせたるれば
ちげき紋の
なるとこくらん



源氏物語四絵

國貞画
種彦作



東都本屋園家匠板摺

偐紙芳洲集 全二冊 開板

偐紙散家集 全二冊 遠刻

偐紙今四歌仙 全一冊 開板 拾雲 秋末 相国 小国 四大人の作なり 当時の風流あるべしなり

元天保、丙申の第七年 乙巳の間 海内名匠方ハ和中及ぶ名所なる人々の俳合百番を切つる当時の海内一瞬なるべしもの

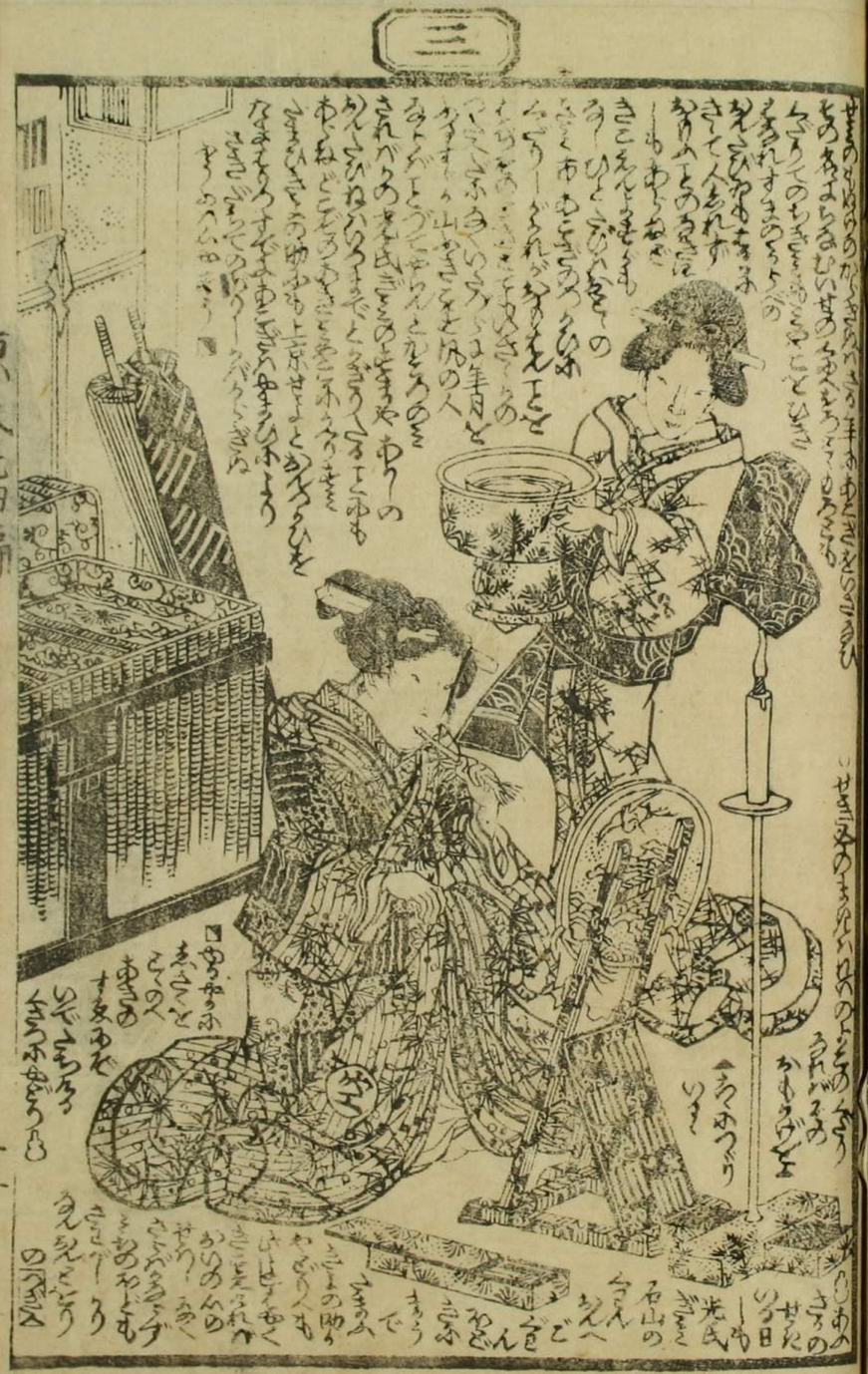
偐紙今人俳合集 全四冊 新開板

偐紙今人書白集 全二冊 来酉年早春出板

書肆 江戸通油町 仙鶴堂 鶴屋喜右衛門蔵

元四編上
種彦作

第九四編上冊
倩笠
田舍
源氏
千歲齡
鶴屋壽梓
柳亭種彦作
歌川國貞画


源氏九四編
三

四

國貞画 種彦作

浄書千形道友

天保八年丁酉初春新彫

修紫田舎源氏　柳亭種彦作　歌川國貞画

岩本氏製

一筋道雪眺望　笠亭仙果作　歌川國芳画　全四冊

森羅万象心意氣　五柳亭徳升作　歌川國芳画　全四冊

琴声女房形氣　山東庵京山作　歌川國貞画　全四冊

飛翼連理恋の櫻樹　通用亭徳成作　歌川國芳画　全四冊

敵鯉差夏草物　歌川國芳門種画

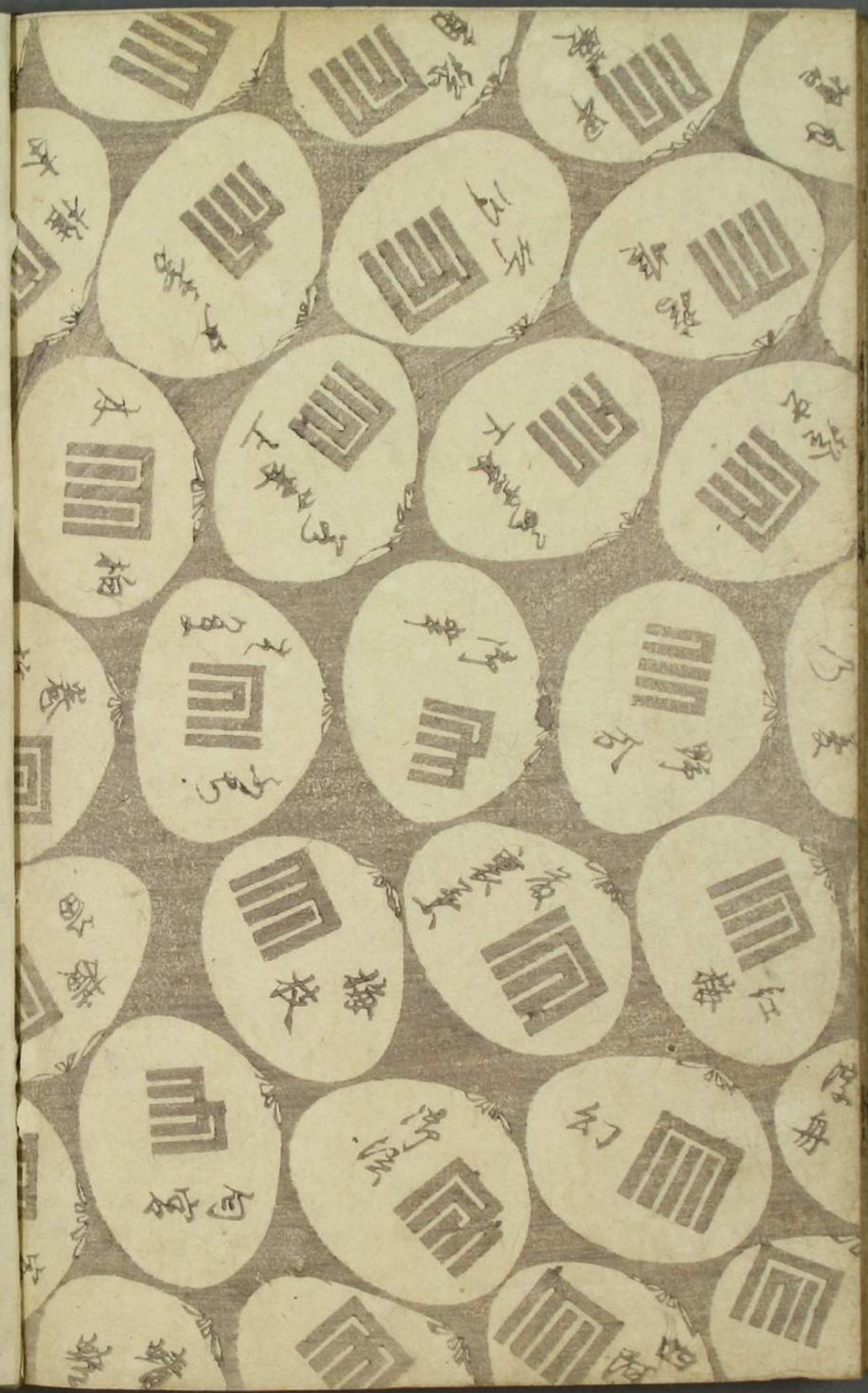
茶家のいろは　二冊

火焚だワ　二冊

浦島茅　三冊

くもちゑん　三冊

黒油美玄香　南傳馬町三丁目西側　坂本氏製　四十八銅

美艶仙女香

書物錦繪扇地紙　問屋　江戸通油町　鶴屋喜右衛門